

福島県PTA連合会会報
第84号_H23.03.08

PTAふくしま

第84号

福島県PTA連合会
編集/調査広報委員会
印刷/泉印刷所

「活動スローガン実践」より



「田んぼの学校事業」

～田植え、草取り、稲刈り、脱穀と
みんなの協力を得て作業～



《主な記事》

- 各地区だより～特色あるPTA活動～ P2～3
- テレビの見方などについてのアンケート結果 P4～5
- 第34回子ども災害事故防止習字・ポスター展 P4～5
- 事務局より P6

〔提供 いわき市立夏井小学校 PTA〕

反抗期は子どもの自立のシグナル



福島県教育庁社会教育課主幹

増子清一

長年中学校の教師をしてきて強く感じるがあります。私が若い頃、中学校では「校内暴力」と言う言葉が毎日のように新聞紙上ににぎわしていた時代でした。私は生徒指導担当として今日は何が起きるかなと思いつつ出勤をする毎日でした。そんな中で問題行動を起こす生徒の親さんの最終的な相談は「先生、うちの子は私の言うことなど全然聞いてくれませんか。どうしたらいいのでしょうか。」というものでした。

逃げてしまったのでは、成長途中の子どもたちは人間として目指すべき自立の方向性を見失ってしまっているのです。

その過程で納得しきれないとき、「反抗」という形で自分を表現してしまうのだと思います。ある意味ではだれもが通る当たり前の成長の過程であり自立のシグナルなのかもしれません。だからこそ、それをしっかりと理解し受け止めてくれる一番身近な大人が親や教師であるべきなのだと思います。しかし、その時に親や教師が

「だれにも迷惑なんかかけてねえ」、「俺の勝手だろう」、「お前には関係ねえ」などの言葉でどうしようもない自分を表現します。そのような子どもたちに「人生はそんなじゃないよ」と教え導くのは並大抵のことではありません。親さんが困り果てた結果、口にするのが冒頭での「先生、うちの子は私の言うことなど全然聞いてくれませんか。どうしたらいいのでしょうか。」という相談だったのです。

中学生の時期は、一人の人間として成長する過程で大人社会の様々な矛盾に悩み、自分なりに納得をし、方向を決めるそんな大事な時期なのではないでしょうか。その過程で納得しきれないとき、「反抗」という形で自分を表現してしまうのだと思います。ある意味ではだれもが通る当たり前の成長の過程であり自立のシグナルなのかもしれません。だからこそ、それをしっかりと理解し受け止めてくれる一番身近な大人が親や教師であるべきなのだと思います。しかし、その時に親や教師が

私は、親や教師は子どもたちが安心して自己主張できるぐらいの力量を持つべきであるし、自信を持って子どもに説得、納得、体得させられる生き方と信念が重要であると考えています。

各地区だより 〜特色あるPTTA活動〜

マクロビ給食と食育を通して 食生活習慣を形成する

西郷村立米小学校父母と教師の会会長

金田 稔

子どもの生活習慣を考える、という様々なテーマで論じられているように、食育について語られていることは比較的少ないように見受けられる。西郷村では「健康と命の大切さ」という人間として生きるための根幹をなすテーマに正面から取り組むために、学校と家庭との連携による食育を推進してきた。

現在西郷村では、和食を中心とした望ましい食習慣の形成、風土に根差した食文化の継承をねらいとする「マクロビオティック給食(通称マクロビ給食)」を取り入れている。食材も村内の学校給食協力会や学校農園で収穫した野菜などを取り入れ、安全・安心な学校給食を実現し、「食べたい給食」より「食べさせたい給食」を実践している。

この取り組みにより、食べる力を通して自らの健康管理ができる子どもの育成を学校、家庭、地域が連携して行えることとなった。

また、子どもたちが自らメニューを考え自ら作る「村内一斉お弁当の日」の実施により、栄養に関する知識の向上のみならず、家族のつながりや感謝の心をはぐくむ機会を提供している。

これらを受けて米小学校では、学校給食協力会や、米の生産農家を招いての講演を通して、まずは自分たちを支えてくれる人々に対する感謝や自然の恵みの仕組みを理解させることに重きを置いた。

また保護者に対しては、給食試食会を開くことによりマクロビ給食への理解と家庭での実践を促し、子どもたちに対しては、昼の放送でその日の食材の説明をしている。

村内一斉お弁当の日には、学年に応じてお弁当作りの手伝いやアドバイスを家庭内で実施し、それを機会として日ごろから食事づくりに何らかの形でかわりを持たせよう留意した。子どもたちが自ら家族と一緒に弁当を作ることで、家族のつながりを深めたり、一食一食に込められた愛情を知ったりすることが、本来の食育の目的であると認識している。

今後の課題として、マクロビ給食は成長期を迎えている子どもたちの健康増進に大きく貢献していることは、各家庭に浸透していると思われるが、残念なことに子どもたちの「好きなメニュー」とはなり得ていないという現実がある。そうなることやより家庭においては、「好きなメニュー」を優先させてしまうことが多いようだ。現代病の多くは、食生活の改善で予防できると言われている。親の意識を高め、子どもと共に食に正面から取り組むことが今後の課題といえよう。

子どもたちの生活をテレビや ゲームから引き離そう

〜家族の絆を深める活動を通して〜

矢祭町立東館小学校PTTA会長

大森 秀一

本校は、福島県と茨城県の県境に位置する矢祭町の中心部にある児童数百四十四名の小規模校です。

昨年度一学期の保健室利用者数はのべ五百三十五名で、一人当たり三・五回の利用という結果でした。この内、けが以外での保健室利用者数は、のべ二百三十八名で一人平均一・六回の利用でした。理由は、頭痛・悪心といった不定愁訴が多く、睡眠不足や生活リズムの乱れが危惧されました。

また、メディア接触に関するアンケートの結果からは、テレビやゲーム等の平日の平均接触時間二〜三時間が全校児童の五〇・〇%、休日の平均接触時間四〜六時間が三八・

三%、最長接触時間は、平日で六・五時間、休日で十四時間とメディア漬けの傾向も浮かび上がりました。三〇%以上の児童が、十時以降に就寝している実態も課題と考えられました。

この実態を改善するために、授業参観や懇談会等の機会を利用してその状況を保護者の方々に説明するとともに、学校だよりやPTTA会報を通して、テレビ・ゲーム等のメディア漬けの危険性について意識化を図り、子どもの生活リズム作りの必要性について呼びかけました。

矢祭町では、一昨年度より文部科学省委託「子ども読書の街」づくり推進事業を進めていたこともあり、子どものメディアに向かう時間を読書活動に向けるため、「子ども読書の街」の充実に努めるとともに、各家庭で読書に取り組み環境作りを行なってきました。また、家族で同じ本を読み話し合う「家読(うちどく)」の推進のため、学校と連携し、家読カードや感想ノートを作り、各家庭でも「家読運動」の実施に取り組みました。

「子ども読書の街」づくり推進事業と連携し、事業推進の一端をPTTAが担うことで、「家読家族」の紹介や座談会を設けてもらい、読書の楽しさを知ってもらうことにより、活動にも広がりが見えてきました。保護者と地域の有志で「家読推進の会」を立ち上げ、定期的な活動を行っている地区も出てきています。



子どもの社会性を育むため親と 先生と地域が連携した活動

飯館村飯桶小学校PTTA会長

高橋 栄二

本校は、阿武隈高原の北側に位置し、平成十七年度に新築された校舎です。その中で、子どもたちは、先生方と元氣よく勉学に励んでいます。子どもたちの生活習慣や自立心の向上については、私たち保護者も大いに関心をもち、子どもたちの未来に大きく関わることに視点を当てて取り組みを進めています。

主な取り組みとしては、「健康な歯づくり」「早ね・早起き・朝ご飯運動」「米作り」「ペットボトルキャップ集め」「読書の推進」などがあげられます。

「健康な歯づくり」では、歯みがきの習慣をつけるために幼稚園PTTAとも連携しています。また、教養委員会主催の歯科衛生士による「親子歯みがき教室」も行いました。各家庭の協力もあり、九十三パーセントの児童がむし歯なしを達成すること





ができました。

ペットボトルキャップ集めは取り組み三年目です。学校での取り組みを年々拡大し、村内外や県外までも活動の輪が広がり、一トンを超えるペットボトルキャップが集まりました。この活動の意義に親子共に気付きはじめています。

また、「早ね・早起き・朝ご飯運動」で健やかな身体を、「稲作り」で子どもたちのやる気を、「読書の推進」で子どもたちの知性などを育てたことにより、子どもたちの明るい笑顔が益々多くなり、以前よりも自信が付いたように思えるのは私だけではないと思います。

これらの取り組みは、保護者や地域の協力が大切であり、学校行事への積極的な関わりをお願いしながら進めてきました。

私たちPTAもこれらの成果や子どもたちの成長を自信につなげ、地道に取り組みを持続していくことが大切だと思います。

子どもの生活習慣の確立や自立心の涵養を目指して

伊達市立霊山中学校PTA会長

石 上 一 成

本校は、県北地方で阿武隈山系の裾野に位置し、県立自然公園の霊山の山がとて綺麗に見えます。そんな本校も少子化の影響で年々生徒数が減っています。

また、本校には、五つの小学校から入学してきますが、それまで知らなかった友達と三年間共に過ごし、お互いに親しい仲間として先輩後輩の関係を保ちながら、毎朝生徒会役員が中心となり、昇降口に立ち挨拶運動を行っています。「おはようございます」の声掛けに、「おはようございます」の挨拶がとて新鮮で爽やかです。学校だけではなく家族の中でも、地域の方々に会った時にも「おはようございます・こんにちは」と



▶(あいさつ運動の様子) 毎朝、生徒会役員が昇降口前であいさつ運動を行っています。



▶(立志式のお祝いの会の様子) 立志式の後、テーブルマナーの学習も兼ねた食事を開催し、PTA役員も参加し立志式を祝いました。

挨拶を交わしています。子どもたちが、自然に身に付いた生活習慣になっていきます。

先日、二月三日に伊達市青少年育成市民会議の主催で、立志式が厳粛に行われ、一人々会長から立志証書が授与されました。「立志式」は、十四歳の立志を迎える節目に、古式に倣って大人になるための決意を固めるための儀式として、伊達市の各中学校で毎年行われています。式に臨んだ子どもたちは、誓いのことを全員で述べました。

「十四歳の決意」

- ・感謝しよう、私達を見守り育ててくれた家族・先生・地域の皆様。
- ・大切にしよう、ともに学び協力し磨き合う仲間。
- ・守り続けよう、歴史あふれる自然豊かな我がふるさと伊達市霊山町。
- ・高い志と、希望を持って社会に貢

献する人間となるよう努力していきます、と志を立てました。自分の将来、自分の進む道に向かって努力し、扉を開いて羽ばたく大人になるために自立した心を養ってほしいと願い、学校、地域と連携し、PTA活動の充実に努めていきたいと思っています。

部活動の活性化を通じたPTA活動の取り組み

榊葉町立榊葉中学校PTA会長

直 井 秀 夫

榊葉町は、浜通り地方のほぼ中央に位置し、東に太平洋、西に阿武隈山地と海と山に囲まれ、広々とした田園風景、秋には鮭が上がる木戸川と自然環境に恵まれた地域にあります。また、国内外にも有名なJヴィレッジがありスポーツ環境においても素晴らしい地域です。

数年前までの榊葉中学校は生徒指導上の課題が多く、日常生活の基本的な生活習慣が身に付いていない生徒が目立つ状態でした。そこで、家庭・学校・地域が一体となって取り組める活動は何か？を考えた結果、現在「部活動」を通じた活動を展開しています。

榊葉中学校では「個性の伸長と人間性・社会性の育成」をねらいとして、「全生徒がいずれかの部に所属することになっています。すなわち部活動を通じて一人ひとりの個性を伸ばすと共に、自主・自立、チームワーク、友情そして感謝の精神を育てる場としているからです。特に「あ

いさつ」と「マナー」には力を入れています。

この理由として「あいさつ」は、心のかよふ家庭づくりや地域づくりなどの人間的な繋がりをつくる大切なものであり、人と人とのコミュニケーションの原点であること。「マナー」は、団体生活をする上で相手を不快にさせないという「他者を気遣う」気持ちが必要だからです。そして、この部活動を支えるために、PTAとしては「体育文化後援会」を組織すると共に部活動ごとに「保護者会」を設置し、練習や応援体制の確認、顧問の先生や他の保護者会との情報交換を積極的に行っています。これらの活動により、保護者同士はもとより、保護者と先生の協力関係もより強まりました。また、生徒においては「こんにちは！」と元気なあいさつをする姿が見られ、地域の方からも褒めの言葉が頂くなど着実に成果が現れてきています。最後に、この良い環境をPTA一丸となって続けていきたいと思っています。



体育文化後援会・保護者会の意見交換会の風景

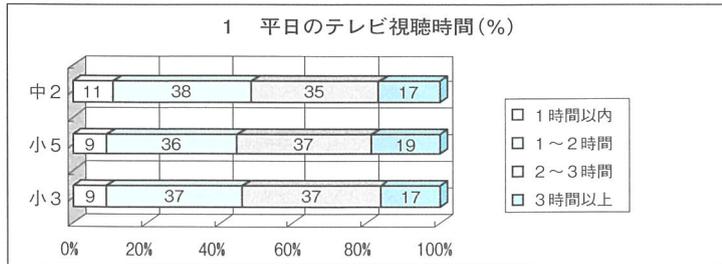
テレビの見方などについての 保護者のアンケート結果(速報)

健全育成委員会

今年の一月、各都市P連の皆様にご協力をいただき、健全育成委員会で昨年度に引き続き、テレビ視聴やゲーム、食事の時間との関わりなどを中心とし、保護者を対象にした「家庭内でのコミュニケーション」を実施しました。

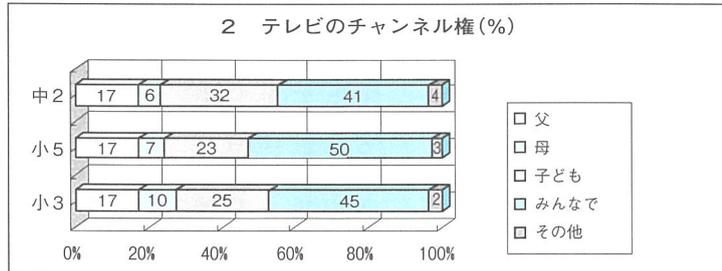
その集計結果がまとまりましたので、その一部を速報の形でお知らせいたします。この結果から、保護者の意識の傾向や、前回お知らせいたしました児童・生徒へのアンケート結果と見比べるなどとして、子育てや我が子への関わり方などを考える資料として役立てていただければと思います。(なお、詳細につきましては次号でお知らせいたします。)

1 お子さんは、平日(月曜日から金曜日)は、どのくらいの時間テレビを見ますか。



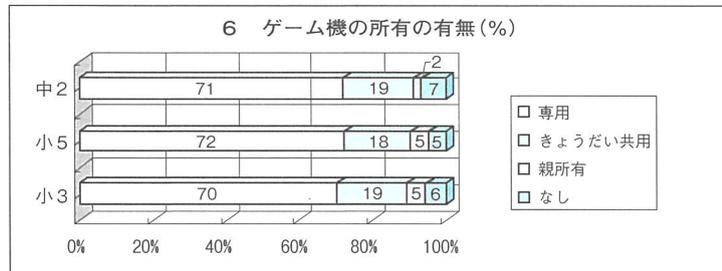
〈考察〉小3、小5、中2ともほぼ同様の傾向を示している。平日に2~3時間のテレビ視聴がどの学年も40%近く認められる。

2 家庭でテレビを見る時、チャンネル権(見る番組を決める)はだれが持っていますか。



〈考察〉父親はいずれも2割弱がチャンネル権を持っていると答えているが、母親は、学年が進むにつれて少しずつ減っている。一方、みんなで、という回答も半数近くある。

6 お子さんに、ゲームを持たせていますか。



〈考察〉7割以上の家庭で、子ども専用のゲーム機を持たせており、親所有については、小3、小5で5%、中2では2%だけである。

習字の部入賞者

▼小学校の部

- ◆最優秀賞(一年) 目黒恭涼(白河二) (二年) 大西莉央(平一) (三年) 土田 凜(棚倉) (四年) 吉野可那子(庭塚) (五年) 金澤菜々子(平二) (六年) 鳴瀬裕美(喜多方二)

- ◆優秀賞(一年) 林 洋美(行仁) 福田心花菜(白河三) 金沢琉聖(中畑) (二年) 鈴木結子(五箇) 斎藤海杏(白河二) 星 清夏(行仁) (三年) 深谷 陸(五箇) 佐藤佳弥(小名浜一) 渡辺 壮(平二) 大竹玖実(喜多方二) 杉原ほたる(城南) (四年) 生田目彩花(上遠野) 濱田美里(本郷一) 佐藤真衣(五箇) 遠藤祐香(小名浜一) 吉田チヒロ(喜多方二) (五年) 伊藤彩花(杉田) 野崎未来(柏城) 藁谷大美(小名浜一) 高橋美羽(白河三) 高橋康介(五箇) (六年) 鈴木彩乃(平一) 廣木千咲子(行仁) 工藤 彩(好間二) 佐川英里華(棚倉) 高木祐理(表郷)
- ◆優良賞(一年) 芳賀智博(五箇) 戸田結菜(喜多方二) 根本歩夢(小玉) 大竹真優(荒館) (二年) 澤入美

第34回子ども災害事故防止習字・ポスター展
三十四回を数えた今回も、温かいご支援とご協力をいただき開催できましたこと、厚く御礼申し上げます。関係の先生方のご理解・ご協力に感謝いたします。

審査の先生方(敬称略)

- 習字
佐藤 一男(元清明小教諭)
丹治 英郎(元福田小校長)
鈴木 幸子(元蓬萊小教諭)
○ポスター
武田 德行(元渡利小校長)

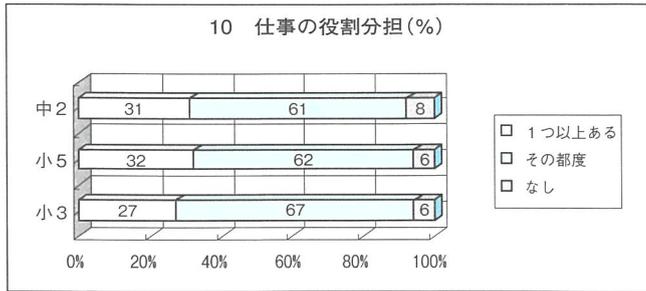
みち
大西 莉央
▲小2年 平一小 大西 莉央さん

花火
吉野可那子
▲小4年 庭塚小 吉野可那子さん

整理
星 結衣
▲中3年 西袋中 星 結衣さん

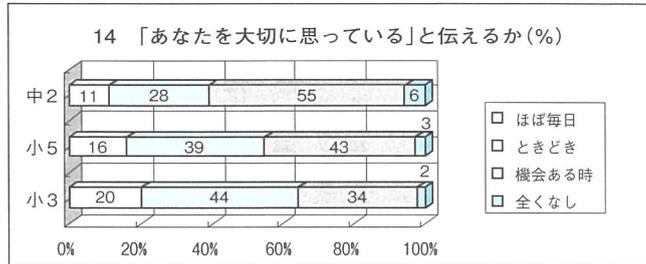
- 優(白河二) 前田真花(石川) 紺野彩花(旭) 藁谷菜々(小名浜二) (三年) 飯高 葵(好間二) 吉田実由(いわき・草野) 阿部竜馬(大甕) 小林

10 お子さんに家族の一員としての役割を持たせていますか。



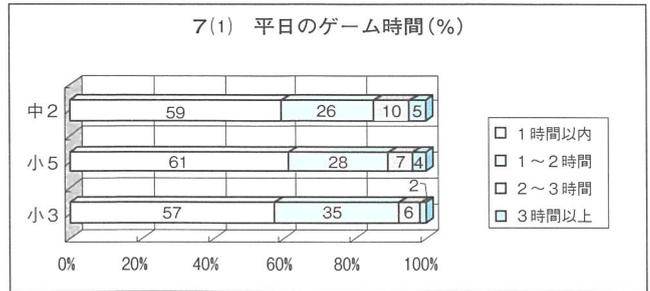
〈考察〉どの学年も、30%程度の家庭で、子どもに決まった仕事を与えている。

14 お子さんに、「あなたを大切に思っている」と伝えることはありますか。



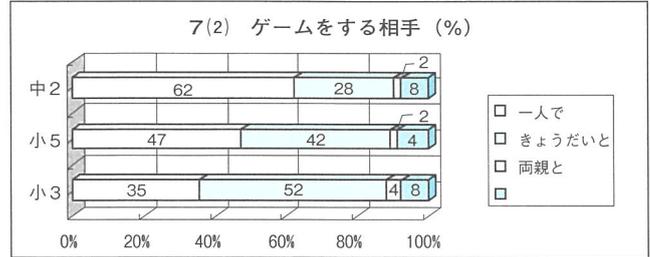
〈考察〉小3ではほぼ毎日と答えた割合が20%だったが、中2では、ほぼ半減している。全体的な傾向は、学年が上がるにつれて、気持ちを伝える頻度が減少してきている。

7(1) お子さんは、平日（月曜日から金曜日）は、どのくらいの時間ゲームをしますか。



〈考察〉1時間以内の割合は、どの学年もほぼ同じである。学年が上がるにつれて、2~3時間、3時間以上の割合が徐々に増加している。

7(2) ゲームをする時、だれとしてることが多いですか。



〈考察〉両親や友達とする割合にあまり変化はないが、学年が上がるにつれて、一人でする割合が増え、きょうだいとする割合が減ってきている。

今回の保護者のアンケートで、あきらかになったこと

○小3で一割強、中2で二割強の子が自分の部屋にテレビを持っている。

○テレビを見ない日を決めている家庭はほとんどない。

○平日のゲーム時間は、どの学年も六割程度が一時間以内である。学年が上がるにつれて、二時間以上の割合が増えている。

○ゲームをだれとするかは、学年が上がるにつれて、きょうだいから一人に移行する傾向が見られる。

○ゲームをしない日を決めている家庭では、学年が上がるにつれて、しない日の割合が増える傾向がある。

○仕事分担では、どの学年も三割程度が役割を持たせている。

○どの学年も七〜八割の家庭は、子どもと毎日話している。また、帰宅時の表情も同程度の家庭が毎日観察している。

○「あなたを大切に思っている」と伝えることについては、「毎日、時々」は学年が上がるにつれて減少している。その分、「機会あるごとに」が増えている。

ポスターの部入賞者

▼小学校の部

- ◆最優秀賞(一年) 高久響生(中畑)
- 〳二年) 野崎雪乃(中畑)
- 〳三年) 大塚海晴(棚倉)
- 〳四年) 片野奈緒(棚倉)
- 〳五年) 星思惟那(中畑)
- 〳六年) 鈴木維仁(石川)
- ◆優秀賞(一年) 伊藤海音(中畑)
- 〳二年) 伊東彩花(相馬・山上)
- 〳三年) 薄井康汰(五箇)
- 〳四年) 長尾俊(福島)
- 〳五年) 二瓶優希(鶴城)
- 〳六年) 泉悠大(石川)

▼中学校の部

- ◆最優秀賞(二年) 鈴木千恵(浅川)
- ◆優秀賞(二年) 兼子瑞歩(浅川)
- ◆優良賞(三年) 佐久間美華(鏡石)

▼中学校の部

- ◆最優秀賞(一年) 大内美宙(二本松)
- 〳二年) 大東千夏(棚倉)
- 〳三年) 星結衣(西袋)
- ◆優秀賞(一年) 潮地萌(矢吹)
- 〳二年) 川野まき(西郷)
- 〳三年) 中澤葵(上遠野)
- ◆優良賞(一年) 須江美友(伊南)
- 〳二年) 馬目千維奈(いわき・泉)
- 〳三年) 徳田伶奈(白河)

長 菅野菜月(石川) 草野成美(小玉)

▶小一年 中畑小 高久響生さん



安全互助会から

すでに平成二十三年度安全互助会への加入案内をしたところですが、確認いただきたい点をお伝えいたします。

◎今後の日程等

○加入申し込み締切

……三月十日(木)

※まだのところがありましたら

お急ぎください。

○「会員証」「事務取扱概要」の

送付……四月上旬

※このとき、事故報告用紙も送

付します。

○会費納入……五末日

○会費引落とし

……六月三日(金)

平成23年度研究大会等の予定

月	主 な 行 事	
6	県P小・中懇談会	24日(金)
8	日P研究大会ひろしま大会	26日(金)
		27日(土)
9	東北P研究大会秋田大会	17日(土)
		18日(日)
	県P母親代表懇談会	29日(木)
10	県P研究大会会津若松大会	23日(日)

※ただし、口座引落としの手続きをしている学校・園のみ
※新たな会費の口座引落としを希望される場合は、本会宛にご連絡ください。

◎事故報告について

① 傷害事故、賠償事故の報告については、ケガをした日・事故

が発生した日が基準となります。

三月三十一日までに発生した

事故については、二十二年度の

会員証番号・加入コース・学年

で報告してください。

② 二十三年四月一日以降のケガ

については、二十三年度の会員

証番号となります。

③ 「事故報告書」に、住所や氏

名を記載しますが、「フリガナ」

の付け忘れが多く見られます。

そのたびに、学校・幼稚園に問い合わせさせていただくことになりませんので、本会宛に郵送される際、付け忘れがないかどうかご確認いただきたいと思います。

◎登校・下校中のケガについて

登校・下校中は、学校管理下な

ので、日本スポーツ振興センター

からの補償が得られるケースです

が、本会の安全互助会も補償の対

象としています。

したがって、重複して給付されることになりませんので、忘れずに

請求手続きをしてください。

医療費の無料化が進み、市町村

によって違いはあるものの、中学

生まで無料化が進んでいるところ

もあります。

しかし、本制度は、あくまで保

険制度であり、医療費とは別に支

払われるものなので、面倒がらず

に請求手続きをしてください。



編集後記

相変わらず、児童虐待の痛ましい事件が報道されています。

ようやく「親権」について法制

化されようとしています。この

成立を待つまでもなく、子どもた

ちが安心して生活ができる家庭、

地域づくりは、私たち大人の当然

の努めではないでしょうか。

(T・H)

共栄火災

夢を、未来を、
ずっと近くで支えたい。

つながり強化宣言！ 共栄火災



サイ吉

人々が気持ちよく毎日を暮らせるよう、
安心のチカラでそっと支えるサイ。
共栄火災のサイ吉です。